

## 6. 学生支援

### 1. 現状の説明

#### (1) 学生が学修に専念し、安定した学生生活を送ることができるよう学生支援に関する方針を明確に定めているか。

創立者新島は、同志社創立10周年記念演説の中で、自身の渡米中に退学処分になった数名の学生のことふれ「諸君ヲ一人一人ハ大切ナリ、一人ハ大切ナリ」と語った。また、臨終の折には「社員たるものハ生徒ヲ鄭重ニ取扱ふ可き事」という同志社への遺言を残してこの世を去った。本学の学生支援における基本姿勢は、(一国の良心とも謂ふ可き人々の育成を目指し、) 学生一人ひとりに全人格的に接しようとした新島の真摯な姿勢に他ならない。修学、学生生活、進路に係る全ての学生支援の局面において、創立者の志、姿勢を受け継ぎ、環境整備に努めることが、(揺るぎない) 学生支援に関する方針であり、「学生生活のしおり2014」の「同志社女子大学のあゆみ」の表紙部分に明記した。

本学図書館における学生支援は、図書館運営規程第1条の目的に掲げられているように、「研究及び教育に必要な図書その他資料(以下「図書」という。)を収集、整理、保管し、かつ閲覧に供して、本学の教育と研究活動に資すること」にある(6-1)。

この目的を遂行するためには、必要とされる資料を充実させるだけでなく有効に活用されなければならない。そこで2011年度に、より具体的な図書館の目標を定めた(6-2)。

#### 目 標

1. 必要な資料の体系的かつ計画的な収集・整備の促進
2. 利用者の立場に立つての利用環境(施設・設備・制度・接遇等)の改善
3. 図書館利用促進
4. 図書館活用能力・情報リテラシーの育成(自立した情報利用者の育成)
5. 授業(シラバス)との連携による支援
6. 機関リポジトリの充実

#### (2) 学生への修学支援は適切に行われているか。

##### 【留年者および休・退学者の状況把握と対処の適切性】

休退学者については、学生課が、履修状況、日本学生支援機構の奨学金の貸与のチェック、ご父母の承認、アドバイザー教員(6-3 p.55)などへの相談、報告を踏まえて、異動の原因や動機について状況を把握するとともに今後の対応について、できるだけ丁寧に面談し対応しており、ここ5年間で退学者40名/年、休学者80名程度/年となっている(6-4)。

また、留年者については、各学科を中心に履修登録指導や授業への出欠状況を把握し、個別に対応しながら修学支援を行っている。その結果、全学約6,500名の学生のうち、ここ5年で40名程度/年となっている(6-4)。

##### 【障がいのある学生に対する修学支援措置の適正性】

現在、聴覚障がいのある学生に対して、パソコンテイクによるサポートを行っている。学生の有償ボランティアを募集し(6-5)、テイク講習を定期的実施して、個々の能力を向上させ、一定の能力を身に付けたのち、サポートの実践を行っている。今年度のテ

イク利用者は2名であり、有償ボランティアの登録者数は、京田辺キャンパス 58 名、今出川キャンパス 22 名である (6-6)。

サポートできる範囲は、原則正課のみとしているが、状況に応じて履修説明、キャリアガイダンスなど重要な事項については、相談の上支援している。

#### 【奨学金等の経済的支援措置の適正性】

本学独自の奨学金をはじめ、日本学生支援機構奨学金を活用して、経済的支援を行っている (6-3 p. 40～43)。特に学費未納により、修学に支障をきたさないよう、学費の督促は学生課が担当し、各種奨学金の情報提供を行い支援している。

#### 【図書館】

図書館の主な就学支援として、各種冊子の作成・配布をはじめ、カウンターでの図書の貸出・返却、レファレンスサービスに加えて、以下の取組みがあげられる。

学生が図書館を有効に活用できるように、新入学生を対象とした冊子、「図書館フロアガイド」と「同女図書館プチガイド」の配布と「新入生のための図書館オリエンテーション」を実施している。また、学生の学年進行に合わせて、図書資料の活用方法に関する「各種図書館オリエンテーション・講習会」を実施している (6-7)。

ゼミ指導教員とゼミ生が直接、書店に出向き、卒業研究・卒業論文などで必要な専門分野の図書の選書を行う「ゼミ選書ツアー」は、本学の学問分野が5学部10学科と広範囲になるなか、各学問研究の動向に合わせて、資料の充実をはかる一手段として実施している (6-8)。

「図書館学生サポーター制度」は、学生視点からの図書館の改善や、学生が図書館員と協働して行う図書館の運用や広報などを通して、利用促進・学習支援を図ることを目的に2012年度にスタートした。2012年度は今出川12名、京田辺14名が参加。選書ツアーで選んだ図書のPOP作成・展示などを実施。2013年度も引き続き募集し、活動を継続中である (6-9)。

その他、学生の知的好奇心を喚起し、新たな書物との出会いの場を提供する「先生のおすすめ本」「学科推薦図書」などを作成し、大学ホームページに公開している (6-10、11、12、13)。

#### (3) 学生の生活支援は適切に行われているか。

まず、新入生（リトルシスター）を対象に入学前に在學生（ビッグシスター）を紹介するシステムを1957年依頼50年以上にわたり、実施している (6-3 p. 55)。初めて体験することが多い大学生活の新しい環境に少しでも早く慣れ親しめるよう、入学前にすでにビッグシスターを募り、新入生と連絡を取り合い、心強い相談相手・良き友人として、信頼関係を築いている。2013年度両者の人数は、それぞれ339名と459名を示し、学生主体の支援活動として根づいている (6-14)。

また、新入生オリエンテーションを実施して、大学全体や学科別プログラムを通じて、さらに一部の学科では、一泊のオリエンテーションを実施し、スムーズに大学生活のスタートがきれるよう支援している (6-15)。

## 6. 学生支援

さらに、授業開始後は、アドバイザー教員が、アドバイザー（新入生）に対して、授業の空き時間を利用し、いつでもあらゆる相談が受けられるようオフィスアワーを設けている（6-3 p.55）。

### 【心身の健康保持・増進および安全・衛生への配慮】

保健室では、2011 年度より、各キャンパス 1 名ずつ看護師を増員し、総員 7 名となった。京田辺キャンパスでは、9 時から 20 時まで開設しているが、その内 9 時から 17 時まででは、2 名体制が組めるよう改善した。今出川キャンパスについても同様の時間帯は、2 名体制となるようにし、学生の日常的な健康管理の充実を図っている。両キャンパスを合わせると時差出勤している関係上、延べ 7 名の看護師が勤務しているため、健康診断など全学的な行事の際、十分なサポートを行うことができる。また、総員 7 名のカウンセラーが、各キャンパス常時 1 名体制で、毎週 20 名近い学生のメンタル面のサポートを行っている。健康診断も年 1 回全学生を対象に実施し、2013 年度の受診率は 91%で、例年平均 90%以上の受診率を維持している。新入生については、いうまでもなく、ほぼ 100%である。なお、体育会クラブ員には、心電図検査も義務付けている（6-16、17）。

### 【ハラスメント防止のための措置】

本学では、防止委員会を設置し、ハラスメントが発生しない大学を目指している。ハラスメントに関するリーフレットを作成し（6-18）、制度の存在を学生に周知させている。産業カウンセラー、相談員の連絡先をリーフレットに記載し、直接連絡をとれるよう配慮している。また、保健室、学生課に相談があれば、本学のハラスメントの取り組み、ルールについて説明し、本人の意思を確認したうえで、相談員に繋げるよう配慮している（6-3 p.64、6-19）。

### （4）学生の進路支援は適切に行われているか。

各種のプログラムを実施し、学生一人ひとりへのきめ細やかなサポートを実現している。

#### 【就職支援】

##### ・委員会

教員、職員が協力して就職支援を行うために「キャリアサポート委員会」を設置している（6-20）。

##### ・ガイダンス、セミナー

学生の計画的な就職活動を促すべく 3 年次生（薬学部 5 年次生）を対象としたガイダンス、セミナー等を数多く実施している（6-21）。

学部・学科構成が多様化する中、学科の特性・特色にも対応すべく注力している。（「薬学部対象集中ガイダンス」「国際教養学科対象集中ガイダンス」「職種研究特別セミナー（栄養士）」他）

ガイダンスに実践的な要素を盛り込むべく、数多くの企業・団体を招いて「業界研究セミナー」、「企業研究セミナー」を開催している（6-22）。

##### ・キャリアカウンセラー等による個人指導

専門の資格を有するキャリアカウンセラーを両キャンパスに配置し、就職に関する相談、

添削、面接練習に対応している。ハローワークから派遣されるジョブ・サポーターや職員も対応し、延2,000件を超える利用がある（6-23）。

- ・就職支援システム

企業データ、求人情報、就職活動報告書等をWeb上で検索できる「企業求人検索システム」を運用している。2012年度にはスマートフォンやタブレットPCへの対応も完了し利便性が向上した。

- ・メールマガジンによる徹底した情報提供

3年次生（薬学部5年次生）と4年次生（薬学部6年次生）を対象に、就職情報専用のメールマガジンを設定し、行事案内、求人案内等を配信している。2012年度は、3年次生向けを58件、4年次生向けを140件配信した。

- ・電話による個人連絡

職員が分担して4年次生（薬学6年次生）に電話連絡を行い、就職活動の状況を聞き出し、必要な支援に結び付けている。

### 【キャリア形成支援】

- ・委員会

本学の正規科目におけるキャリア教育推進のため「同志社女子大学キャリア教育委員会」を設置している（6-24）。

- ・正規科目

「共通学芸科目ーキャリア教育科目」の中に「大学生活とキャリアデザインⅠ」「大学生活とキャリアデザインⅡ」「大学生活とキャリアデザインⅢ」「キャリアのための自己表現演習」「インターンシップ（大学コンソーシアム京都）」「インターンシップⅠ」を開設している。これら科目に対する学生の注目度は高く、例年、多数の受講者を集めている（6-25）。また、各学科が学科科目として設置するキャリア科目も年々充実している。

- ・資格取得支援講座

社会環境や労働環境が大きく変化する中、未来の仕事の在り方は“ゼネラリスト”から“連続スペシャリスト”へ変化する。」とも言われている。正課カリキュラムはリベラルアーツの基本を守りながら、資格取得志向をバックアップするために、「資格取得支援講座」を課外で開設しており、例年数多くの受講生を得ている（6-26）。

- ・インターンシップ

本学では「インターンシップ」をキャリア教育の一つの柱として考え、「インターンシップⅠ」「インターンシップⅡ」を設置している。これらは、職業現場での就労体験を通して自らの将来を考え、職業観を醸成するとともに、社会性や自立心を促すことを目的としており、例年約180名の学生が参加している（2011年度は震災の影響で減少）。充実した「事前研修」「事後研修」を行い、学生に多くの“気づき”を与えている（6-27）。

## 2. 点検・評価

### ●基準6「学生支援」の充足状況

学生への修学支援、生活支援については、創立者の志・姿勢を受け継ぎ学生支援の方針とし、学生一人ひとりを大切に、学生部と関係部所が連携を図り、きめ細やかな指導お

## 6. 学生支援

よび対応がなされている。特に、奨学金等の経済的支援措置は効果を上げている。進路支援については、キャリアサポート委員会を設置し、キャリア・就職支援に関する認識の共有を図り、同じくきめ細やかな支援を行っている。また、女性の働き方の多様性を認識し、ガイダンス等の支援行事に反映させており、その結果が就職実績に結び付いている。

よって、同基準を充足している。

### ①効果が上がっている事項

#### 【進路支援】

就職支援の最終的な達成度は「就職決定率と内容（質）」に体现される。本学は例年高い就職決定率を維持している（6-28）。リーマンショックの影響で2009年度は大きく落ち込んだが、2010年度以降順調に回復している。業種別では難関と言われる「金融・保険業」に17%が、企業規模別では大企業に51.7%が就職し、職種別では「専門的技術的職業（教員・薬剤師・管理栄養士等）」27.7%、「一般事務」26.3%、「総合職」24.1%とバランスのとれた配分となっている（6-29）。これらの数値は本学学生の就職が率だけでなく質も高いことを物語っており、99.1%という高い就職満足度に反映されている（とても満足52.5%、満足33.5%、ほぼ満足13.1%）。

#### 【留年者および休・退学者の状況把握と対処の適切性】

留年者および休・退学者について、教務課、学部研究室事務室と学生課が連携し、情報を共有しながら、個別に対応し、学生が最終判断する上で、必要と思われる事項について十分説明を行う。伝達事項として、休学届提出期限、休学による在籍年数、さらに退学した場合の年月日（学費納入完了学期末）について説明する。また、必要に応じて、ご父母を交えて面談を実施し、後悔のない選択ができるよう十分に懇談している。結果として、ここ数年特に退学者および留年者が減少傾向にある（6-4）。

#### 【障がいのある学生に対する修学支援措置の適正性】

障がいのある学生の修学意欲をいかに高めるかの点について、障がい者とのコミュニケーションを図り、授業科目ごとに有償ボランティアの能力をタイピング速度などにより見極めて、学生課職員が適切に振り分けを行うことにより、この支援措置は、テイク利用者の学習意欲を高め、また、テイクカーに対して、入学当初の不安な気持ちから安心へと変化したことが、毎年学生主体で実施されるクリスマス会でも報告されている。さらに、テイク利用者自身が、パソコンテイクカーに対して、アンケートを実施し、日頃の感謝を述べるとともに、登録したきっかけやテイク利用者に伝えたいこと、また、要望などを聞いて、相互理解できるよう工夫している。

#### 【奨学金等の経済的支援措置の適正性】

ここ数年の不景気対策として、本学独自の同志社女子大学奨学金（給付制）について約1.5倍の増額を行い、2009年度実績2,200万円、2013年度予算は3,300万円と年次計画で増額を行った。また、予算増額によって、給付人数を単純に増やすという発想ではなく、最低給付額を10万円から20万円にアップし、最高額（授業料2分の1以内）も各学科の

授業料にあわせて給付額を変更した(資料6-30)。給付人数も20名程度増やすことができ、より有効な運用ができるよう改善した。また、学力、人物ともに特に優秀な学生に対し、創立者の名を冠し褒賞する新島賞の副賞も10万円の倍額の20万円にアップした(6-3 p. 43)。

#### 【心身の健康保持・増進および安全・衛生への配慮】

保健室に気軽に来室しやすい環境を整えることにより、心身の健康について早期対応が可能な体制を整えている。また、来室した学生の把握に努め、来室、相談記録をチェックし、必要に応じて、学部事務室や教務課に報告し、適切な対応を行っている。さらに、学生部主任会において、毎月月別に保健室(メンタル)の利用者数を報告し、学期ごとには、評議会においても利用者数を報告している。このように、情報の共有化を図り、少しでも多くの学生を把握することで、関連部署が連携し、手厚いサポートができるようになった(6-16)。

#### 【ハラスメント防止のための措置】

教職員に対しては、毎年リーフレットを配布し、ハラスメントへの理解を深めることで防止に努める。また、学生にはリーフレットの配布や新入生オリエンテーション、学生生活のしおり(6-3 p. 64)によって周知を図り、関連するしないに関わらず、申し出に対して早期対応に努め、未然に防げるよう努力した結果、教職員をはじめ学生自身の意識が年々高まってきている。

#### 【図書館】

図書館オリエンテーション・講習会では、「新入生のオリエンテーション」から学年進行に合わせてレポート・論文作成のための情報検索法など段階的に学ぶことができる。

「ゼミ選書ツアー」では、学生の勉学に直接必要な資料が大学図書館に揃うメリットや学習意欲の向上、図書館への関心が高まるなどその効果は高い。

参加教員からは「とてもよい取り組み。学生の卒論に対する意識が高まった」「学生にとって図書館が身近になった」などの感想が寄せられている。

### ②改善すべき事項

#### 【進路支援】

3年次対象就職ガイダンスの参加者が減少傾向にある点があげられる(6-31)。ガイダンス参加率(プロセス)と就職決定率(結果)は必ずしも正の相関関係にはない。しかし、学生間の二極化、やミスマッチによる早期退職等の諸問題が顕在化する中、適職に出会うためには真摯な就職活動が必要であり、ガイダンス参加は重要なステップであると考え。参加者増に向けて対策を講じる。

また、資格取得支援講座の受講者数も漸減傾向にあり、プログラム内容や規模の見直しが必要と考える。

#### 【留年者および休・退学者の状況把握と対処の適切性】

留年者に対するサポートで、出席状況を確認できるのが、学期途中になるため、授業科

## 6. 学生支援

目によっては、十分にケアできない場合がある。休・退学者については、教職員ひとり一人が、休学による在籍期間や学費未納による退学年月日など制度について十分理解し、適切な指導に役立てなければならない。

### 【奨学金等の経済的支援措置の適正性】

家計基準と成績により選考を行っているが、特に家計については、詳細にわたり把握することは極めて難しい。今後も面談等通じて、少しでも不公平感がないよう本学独自のチェック項目を設けるなどして支援を強化する。

### 【心身の健康保持・増進および安全・衛生への配慮】

メンタル面でのサポートが必要な学生の増加に伴い、面談場所が限られているため、プライバシーに配慮しにくい場面もある。特に京田辺キャンパスは、増設など工夫する必要性が出てきている。

### 【ハラスメント防止のための措置】

現状において、学生が気軽に相談できる環境が整っているかの点については、相手との関係においてまだまだ改善すべき点がある。相談員に拘らず、学部事務室、学生課、保健室が連携し、よりきめ細やかな対応が必要である。今後、さらに学生及び教職員に対する講演会等を行い、意識を高める。

### 【図書館】

2年次生以上の在学生を対象に実施した2012年度の「図書館利用者アンケート集計結果」（隔年で実施）では、図書館利用が「年数回（69人）」「一度も利用したことがない（3人）」と答えた人の割合が約20%に上り、その理由として「本を読む習慣がない」「利用しなくても不便を感じない」があげられていた。図書館に足を向けない学生に、如何に「図書館の役割」「読書の楽しみ」を伝えるかが、引き続きの課題である（6-32）。

## 3. 将来に向けた発展方策

### ①効果が上がっている事項

#### 【進路支援】

「キャリア教育委員会」や「キャリアサポート委員会」での審議、キャリア教育科目の開設と運営をとおして、教員のキャリア支援・就職支援に対する意識が着実に高まっており、教員を通してのよりきめ細やかなサポートの土壌が整いつつある。

また、学生の就労意識・意欲も着実に高まっている。厳しい就職環境の中でも就職希望率が80%超を維持していること、総合職が一般職とほぼ同レベルまで増えていること、業界や職種の多様性が年々増していることが就労意識・意欲の高まりを表している。

従来にも増して、教員との協力関係を強め、全学体制で学生を支援する。

#### 【留年者および休・退学者の状況把握と対処の適切性】

留年者および休・退学者について、関連パートが柔軟に連携することが、学生にとっての

最善な選択ができる要因になるとの意識が確実に高まってきている。現在、どこかの部署だけが抱え込むということがほとんどなくなったことから各パートの意識の高さを感じる。

#### 【奨学金等の経済的支援措置の適正性】

本学独自の奨学金の増額と学生自身により適した奨学金等を案内できるよう、時間をかけて面談するとともに、学費未納者についても、積極的に奨学金を紹介し経済的理由により学業をあきらめることのないよう注意を払うことにより、未納者が減少傾向にある。

たとえば2012年7月末現在未納者は66名、本年度同時期には44名であった。

#### 【心身の健康保持・増進および安全・衛生への配慮】

メンタル面での問題を抱える学生に対して、勉学意欲のある学生については、看護師、カウンセラー、校医である精神科医、また、学生課、教務課、学部事務室が連携し、プライバシーに配慮しつつ、必要な情報を共有して、卒業までをサポートするよう全力を挙げている。結果、メンタル面での問題を抱えた学生で学習意欲の高い学生については、卒業の可能性が確実に高まっている。

#### 【ハラスメント防止のための措置】

本学では、少人数制による授業形態を多く取り入れているが、その効果は、学習面だけではなく、気軽に悩みについて、話せる機会が多いということである。また、ハラスメント相談員への連絡だけではなく、学生相談員、カウンセラー、アドバイザー制度などを利用することにより、ハラスメントだけではなく、問題を抱えた学生を少しでも早期発見するためには各学部研究室事務室等が連携を図り、情報を共有することが不可欠であるとの認識が高まってきている。

#### 【図書館】

「ゼミ選書ツアー」は2012年度から開始し、実施ゼミ11ゼミ、参加者人数112名、購入図書987冊であった。2013年度は募集枠を20ゼミに増やし実施した。

### ②改善すべき事項

#### 【進路支援】

キャリアガイダンスの参加者減少要因の一つとして、キャリア教育（正規科目）と就職支援（正規科目外）の棲み分けや有機的結合が出来ていない点がある。

現在の棲み分けは、正規科目が1、2年次の「キャリア形成支援」を担当し、正規科目外が3年次以降の「就職支援」を担当するという、年次を主たる基準としている。しかし、正規科目を充実する課程において、正課外プログラムとの整合性が充分慎重に検討され調整されたとは言えない。このため、内容が重複する部分、欠落する部分が発生している。正課、正課外ともに再調整を行い、有期的結合を目指すべきだと考える。

ただし、2014年度のガイダンス（正規科目外）は、就職活動が後倒しされる「2016卒生」を対象とする。新日程による就職活動の実態が予測困難な中、大胆なプログラム変更は難

## 6. 学生支援

しい。抜本的対策は2015年度以降に着手すべきと考える。

資格取得支援講座に関しては、プログラム内容と規模を逐次見直す。2013年度から公務員養成を重点項目として展開を図っている。

### 【留年者および休・退学者の状況把握と対処の適切性】

留年者および休・退学者について、問題を抱えた学生も春学期当初は、履修登録を行うことが多く、その後授業を欠席しがちな学生についてのサポートが遅れるケースがある。この点を未然に防ぐには、学部研究室事務室と学生課、さらに教務課とが連携し、きめ細やかな支援を行う必要がある。

### 【奨学金等の経済的支援措置の適正性】

応募者が多いため、一定の家計基準を設けなければならないが、基準以外での状況をどこまで判断材料とできるのか、不公平感の生じないように選考しなければならない。また、できるだけ不明な点は、本人及び家族と連絡を取り合って解消させる。また、困窮学生への給付型の奨学金については、寄付の基金による奨学金を益々充実させ、学費未納による退学者が減少するよう制度を強化する。

### 【心身の健康保持・増進および安全・衛生への配慮】

心身の増進については、健康診断を実施するに留まり、本学独自に食生活相談など実施するに至っていない。今後、積極的に取り組めるよう市や府にも協力を要請する。

### 【ハラスメント防止のための措置】

本学のハラスメント防止に対する取り組みについて、確実に学生自身に周知できるよう新入生オリエンテーションでの学生生活案内の実施、また、リーフレットの配布を継続して行う。

### 【図書館】

授業との連携による支援をより強化するために、例えば、特定のトピックや主題に関する資料・情報を収集するにあたって図書館で提供できる関連資料・情報の紹介をする「パスファインダー」を授業担当者と連携して作成し、学生に提供することなどを検討している。

また、図書館活用法と情報リテラシーとを組み合わせ、より系統的にそれらの能力を身につけられるよう、教員、他部署との連携をはかり全学的な検討を図っていくことも必要である。

## 4. 根拠資料

- 6-1 同志社女子大学図書館運営規程
- 6-2 同志社女子大学図書館の目的と目標について
- 6-3 学生生活のしおり（既出：1-7）
- 6-4 休・退学者状況、留年者状況（2008～2013）

- 6-5 パソコンテイク募集ポスター
- 6-6 パソコンテイク利用者数並びに登録テイク数（サポート開始年度からの推移）
- 6-7 2013 年度同志社女子大学図書館 図書館オリエンテーション・講習会
- 6-8 2013 年度「ゼミ選書ツアー」実施のお知らせ
- 6-9 同志社女子大学図書館学生サポーター要項
- 6-10 『先生のおすすめ本』の紹介について（ご依頼）
- 6-11 学科推薦図書リスト作成のお願い
- 6-12 同志社女子大学ホームページ「図書館：先生のおすすめ本」  
([http://www.dwc.doshisha.ac.jp/library/recommended\\_book.html](http://www.dwc.doshisha.ac.jp/library/recommended_book.html))
- 6-13 同志社女子大学ホームページ「図書館：学科推薦図書」  
([http://www.dwc.doshisha.ac.jp/library/recommend\\_book\\_department.html](http://www.dwc.doshisha.ac.jp/library/recommend_book_department.html))
- 6-14 ビッグシスター・リトルシスター応募者人数推移（2009～2013 年度）
- 6-15 2013 年度入学式および新入生オリエンテーションプログラム
- 6-16 2013 年度（春学期）保健室対応（メンタル）報告  
（京田辺キャンパス、今出川キャンパス）
- 6-17 2013 年度 体育会系クラブ 心電図検診結果
- 6-18 リーフレット「Stop harassment 同志社女子大学でのハラスメントの防止について」
- 6-19 同志社女子大学ホームページ「学生生活：学生生活サポート：ハラスメント：  
ハラスメント防止等のためのガイドライン」  
([http://www.dwc.doshisha.ac.jp/school\\_life/support/harassment/guidelines.html](http://www.dwc.doshisha.ac.jp/school_life/support/harassment/guidelines.html))
- 6-20 同志社女子大学キャリアサポート委員会規程
- 6-21 2013 年度 3 年次生（薬学部 5 年次生）対象 就職・キャリア支援行事日程表
- 6-22 業界研究セミナーおよび企業研究セミナー開催実績（2013 年度）
- 6-23 2012 年度 相談・添削・面談集計表
- 6-24 同志社女子大学キャリア教育委員会内規
- 6-25 2013 年度キャリア教育科目履修人数一覧
- 6-26 資格取得支援講座 講座数・申込者数・受講者数 年度別推移（2002～2012 年度）
- 6-27 インターンシップ・プログラム参加学生推移（2003～2013）
- 6-28 就職状況推移（2003～2012）
- 6-29 2012 年度決定者各種内訳比率グラフ
- 6-30 同志社女子大学奨学金 採用人数・総額（2009～2013）
- 6-31 就職ガイダンス参加者数推移（2011～2013）
- 6-32 図書館利用者アンケート集計結果（2012 年度）